

しやる方で、僕も早稲田で教わったけれど、学術的なことだけでなく現代にも結び付けてエッセイとして書かれているので、読み物としてとても面白いし、親しみやすい。

**幸綱** 俵さんのエッセイは子どもが生まれてから育ってゆく日々をリアルタイムで書いた連載だった。二〇一〇年に岩波書店で本になったね。「昨日はじめてこんな言葉を言った」とか、子供の言葉の話題が新鮮だった。

**谷岡** ところで、二〇〇八年七月号は森さんと俵さんが両方休載していますが、何かあったんですか。

**頼綱** 創刊一〇年記念特集号でしたから。  
**幸綱** 「思い出す人々」は角川書店「短歌」の元編集長、「現代短歌・雁」の発行人だった富士田元彦さんの連載で一年間つづいた。一時代の現代短歌史を作った人物の貴重な文章です。糖尿病が悪化して入院。病院に見舞いに行った折に原稿を頼んだ。入院生活の中でなんとか心に張りを持ってもらいたい、そんな思いだったんだけど、すごく張り切って、毎月一回くれればいいのに、四か月分をいっぺんに書いてきた。四か月分ずつ三回くれたのかな。だから、亡

くなった後も連載が続きました。遺稿になっちゃったわけですね。特に中井英夫、寺山修司、塚本邦雄、前登志夫、深作光貞、春日井建と知った人たちについては、富士田さんしか知らないことが書いてある。頼綱、読んだか？

**頼綱** はい。面白かった。中井さんと小紋さんが新宿三丁目のバー「バラード」で……。

**谷岡** おかまバーですね。

**幸綱** いや、おかまバーじゃないよ。

**谷岡** 中井英夫という人はおかまバーが好きでしたね。新宿二丁目が大好きで、店をやってたんじゃないかな。「カーミラ」とか、「薔薇のなんとか」とか。

**幸綱** 店はやってないよ。入り浸ってたけど（笑）。

**頼綱** 連載でも小紋さんが泣かされた話などが書かれていて面白かったです。

**谷岡** べたべたの長崎舟で小紋さんが啖呵を切ったとか。

**幸綱** 短いから、これだけでは本にならないけど、前衛短歌史の資料として大事なものです。

**谷岡** 君の連載「言葉の位相」は今もずつ

と続いているけど、どうですか、書いていて。

**谷岡** 連載が始まる前にノートを作って、これで九十回くらい行けるといふ計画を立てました。いま丁度その九十回で、このあと、どうするかですが。

**幸綱** 一〇〇回だと四百字詰め原稿用紙で約三〇〇枚になるんだね。もう充分一冊になる分量だ。

**谷岡** 来年、本にしたいと思っているのですが。

**幸綱** 幅広く触れていて、一冊の本になるのが楽しみだね。

**黒岩** 谷岡は単なる酔っぱらいだと思っていたけれど、なかなかちゃんと勉強しているな（笑）。

**幸綱** 「コンゴ便り」の野口修二君は谷岡君の友だちですね。

**谷岡** 小学校、中学校、高校、大学も一緒にです。

**幸綱** 彼は元フランスの領事で、三年ほど前、文化庁の仕事でフランスのリヨンに滞在したとき、すっかりお世話になった。今はコンゴに赴任して、コンゴの領事をやっている。日本人でコンゴに行ったことがあ